

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる — 「人間性」を求める —

12

令和4年 No.1330



令和3年度 山口県特別支援学校文化祭美術作品展 山口県教育委員会教育長賞
「たくさんのワニにおどろくカエル」

山口県立山口総合支援学校 中学部2年 (受賞時) ほった めろ
堀田 美羽

■令和4年4月 新規開講！

■学校安全への取組	山口県立山口松風館高等学校	校長	中野 聡
■歴史を地域の財産に	山陽小野田市立高千帆小学校	校長	下瀬 昌巳
■現職研修助成事業	徳地史談会	会長	山田 文雄
■地域活性化活動助成事業	光市立堀田小学校	校長	吉田 哲朗
■わたしの潤い	岩国市立周東中学校	校長	榎本 丈二
	萩支部		田原 哲生
	萩支部		三輪みゆき

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



あなたの アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない
美しいやまぐち



多様な学びのニーズに応える高校をめざして



山口県立山口松風館高等学校

校長 中野 聡

新高校のコンセプト

本校の設置コンセプトは「多様な学びのニーズに応える 柔軟な教育システムをもつ 新たなタイプの高校」としている。この方向性をできるだけ具現化するため、本校では、既成概念にとられない学校づくりを進めており、空き時間のある日課表の作成や異学年混合の選択授業など、山口県では初めてとなる仕組みを多く取り入れている。

学校づくりの方向性

本校では、まず校訓において、大事にしようと考えている学校の在り方や学校づくりの方向性を集約して次のように示している。

「自由・自主・自律」…自分で選び取る自由の中、柔軟な発想で物事を考え、自ら進んで行動する。また、自らの行動を客観的にとらえ、自己をコントロールして、自己実現のために粘り強く行動する。

「自尊・他尊・協和」…自分の良さや強みを理解し、個性を大切にするとともに、他者との違いを理解し、認め合う。また、他者との和を重んじ、協力し高めあう。

「自由・自主・自律」では「自分の未来は自分で創る」

ことの重要性を、「自尊・他尊・協和」では「他者と対等に協調する」ことの必要性を示しており、この二つが本校の教育方針そのものである。そのため、校風も、生徒が自分のスタイルに応じて伸び伸びと高校生活を送ることを旨としており、校則も設けていない。服装や髪型も自由としているが、周りの人を不快にさせたり、威圧感を与えたりしないよう、自律した行動が必要であることを指導している。生徒たちはこのことをよく心得ており、「社会のルールが山口松風館のルール」を合言葉に、自分たちで居心地のよい学校社会をつくり、また、それを維持していく望ましい風潮が生まれているように感じている。

中学校時代に不登校になったり起立性障害に苦しんだりした経験をもつ生徒も入学してくるこの新高校は、生徒がそれぞれの生活スタイルや学習スタイルに合わせて学びを進めていくことができ、新しい自由な環境の中で、各自が思い描いていた高校生活を送れるような学校をめざしている。

しかし、自由が多いということは、「自分の意思や目標をはっきりさせる必要がある」ということでもあり、その結果の責任を自分で負うことでもある。自分は何がしたいのか、自分は何に向いているのか、試行錯誤を繰り返しながら考え、自分なりの答えを求め続けていくよう導き、長い目で成長させていくことが不可欠である。

コミュニティ・スクールの導入

そのため、本校ではキャリア教育を充実させていくことが極めて重要となり、その対応策の一つとして、開校時からコミュニティ・スクールを導入している。地域と連携した教育や、地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を進めていくことをめざしており、具体的な取組はこれからであるが、生徒の高校生活における目的意識を高め、社会的自立に向けた教育を進めていくよう取り組んでいく予定である。

また、生徒が、将来の目標を明確にしながら成長するに当たっては、常に順風満帆というわけにはいかないものであることから、保護者の理解や協力が重要になってくる。そのため、本校では、予め保護者に対して「日々の出来事にあまり一喜一憂するのではなく、とにかく長い目で子どもの生徒の成長を見守る」ようお願いしており、「卒業までの長い年月の間に、様々な経験を積み重ね、きつとたくましく立派に成長してくれる」ものであることも説明している。このような新たなタイプの高校づくりを教職員、生徒、保護者、学校関係者が一丸となって行っているところである。

山口県立山口松風館高校の紹介



令和4年4月、新山口駅北側に県内初となる3部制の定時制（午前部・午後部・夜間部）と通信制を備えた県立山口松風館高等学校が誕生しました。単位制普通科の高校で、柔軟な教育システムをもった新しいタイプの学校です。

定時制では、自分の時間帯の授業を中心として、興味・関心や進路希望等に応じて教科・科目を選択して学習し、通信制では、自宅で自分の生活時間に合わせてレポート課題に取り組みながら学習できます。

定時制課程

普通科 入学定員 120人
 午前部 40人
 午後部 40人
 夜間部 40人
 ※ うち秋季入学生6人 (各部2)



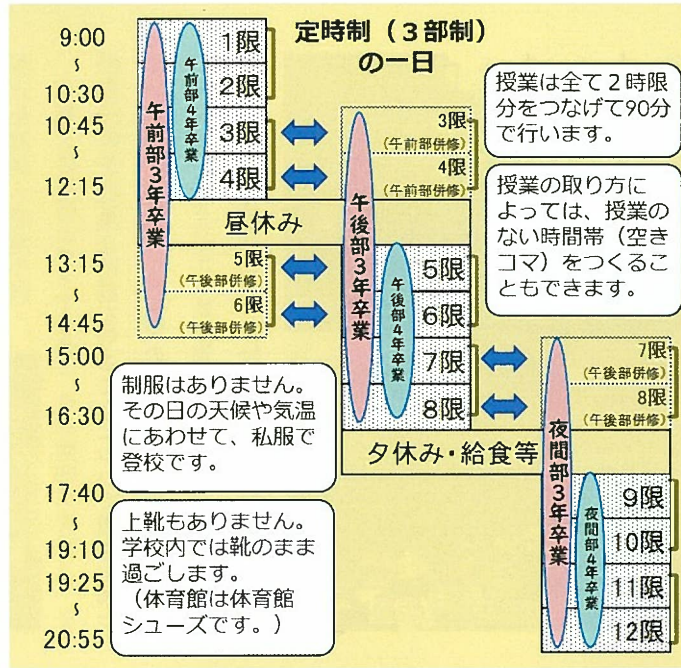
1階のコモンホールでは友人と話したり、食事したりできます。



英語と数学では習熟度別授業を取り入れています。

自分だけの時間割をつくって、学びます。

大学進学、専門学校進学、就職、いずれの進路にも対応します。



体育館は5館にあります。



芸術は音楽と美術の選択です。



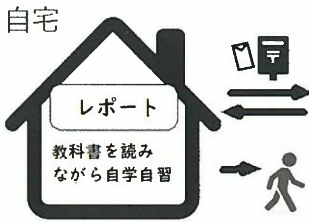
家庭科室は調理台が決め

通信制課程

普通科 入学定員 400人

学校に毎日通わない・・・そんな学び方があります

日曜日等にはスクーリングなどに出席します。



- レポートを教員が添削
- スクーリング
- テスト
- 特別活動



スクーリングの様子(山口松風館会場)



特別活動もあります。写真は新歓行事



【日曜スクーリングの会場】岩国商業高校東分校、徳山高校、山口松風館高校、下関双葉高校、萩高校
 【平日スクーリングの会場】山口松風館高校（2週間に1回）

学校・家庭・地域が連携した

「学校安全推進に向けた継続的な取組」



山陽小野田市立高千帆小学校
校長 下瀬 昌巳

本校は、内閣府の「令和四年度 安全功労者表彰」

学校安全の部において 内閣総理大臣賞を受賞しました。このことは、コミュニティ・スクールを基盤として「つながり合う学校づくり」をめざし、学校と保護者や地域の方々、関係機関等が連携し、日々の小さな積み重ねを大切にしてきた結果であり、集団登校の様子など児童の姿で地域全体の安全意識を高めたことが評価されました。取組の一端を紹介させていただきます。

1 学校安全に関する組織的取組の推進 チャレンジ目標「黙働・黙動」の徹底

本校はチャレンジ目標を「黙働・黙動」「あいさつ」「0分スタート」としています。「黙働・黙動」とは、黙って働き、黙って行動することで、学校生活全体の様々な場面で指導し、登下校や緊急時の整然とした行動につながっています。児童会活動においてもチャレンジ目標を児童自身が振り返り、改善に努める取組を行っています。

三つのチャレンジ目標は、地区ごとに集まって登校する集団登校の指導にも取り入れています。地域の方に元気にあいさつや会釈をする、きちんと一列に並ん

で黙って歩く、集合時刻を守ることに徹底を図っています。加えて、登校班のリーダー指導を実施し、ゾーン30の歩き方や横断歩道を渡らせる際の立ち位置など細かな点まで指導しています。



集団登校の様子



ゾーン30を登校する児童

全教職員の共通理解による共同実践

台風や豪雨、感染症、熱中症等による児童の安全を守るための体制について決定する際は、常に学年主任や関係担当を交えて校内委員会で協議しており、全教職員が共通理解して学校安全に向けた実践を進めていきます。

各種マニュアルの作成・メールでの周知

台風・暴風雨・風水害マニュアル・Jアラート警報発令時マニュアル、校区の水害危険箇所マップを作成し全家庭に配布・周知し、併せて教職員マニュアルを見直し、災害発生時の対応をスムーズに行えるようにしています。また、メール連絡システムを活用し、災害に関することや不審者事案、感染症に関すること、危険動物の出現など、速やかに情報が伝わるようになっています。

2 家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進

見守り活動・交通安全教室による安全指導の充実

教職員による登下校の交通指導や「高千帆校区見守り隊」や「高千帆セーフザピープル」地域活動おのだT・C」などの地域の各種団体との連携により、安全指導を充実させています。また、交通安全協会や警察と連携した交通安全教室（歩行・自転車）を開催し、交通ルールのほか、横断歩道の渡り方、自転車の点検方法などを学び、安全意識を高めています。



見守り隊との対面式



交通指導（自転車）

地域防災訓練への参加



地域防災訓練

年1回、高千帆校区で実施される地区防災訓練に多くの教職員や児童が参加し、防災に対する知識を高め、大規模災害時に学校が地域と連携した取組を行うことができるようにしています。

こども110番の家・防犯パトロール

「こども110番の家」の一覧表と地図を作成して各家庭に周知し、青少年生活指導部が年度当初に継続、新規加入のお願いをしています。また、自治会長を班長とした高千帆校区防犯パトロールを月1回、教員・保護者・地域の方で構成する「補導活動」も月1回実施し、遅い時間に出歩いている児童へ声かけを行っています。

町内児童会の充実・ふれあひ下校

学期に1回実施する「町内児童会」では、各地区の危険箇所や集団登校の反省を行い、地区委員の保護者から助言をいただき安全な登下校につなげています。地区委員が通学路を歩きながら危険箇所の確認も行い、改善箇所がある場合は、「通学路交通安全プログラム」を活用し、学校関係者や道路設置者、警察、保護者代表から構成される市の通学路安全推進会議で協議を行っています。

3 学校における安全に関する教育の充実

避難訓練の計画的な実施

本校では年間3回の避難訓練を実施しています。消防署と連携した火災による避難訓練では、基本的な避難経路や方法の確認をしています。不審者侵入を想定した避難訓練では、休み時間を利用して行い、下校時に1年生



避難訓練 消防署からの指導

を対象とした引き渡し訓練を実施し、学校安全サポートからの指導を受けています。地域の防災士と連携した地震、津波を想定した避難訓練では、防災教育を実施しています。各避難訓練実施後には振り返りを行い、各専門家から受けた助言をもとに改善策を検討し、次回の訓練に生かすようにしています。

安全指導の充実

危険予測学習（KYT学習）を計画的に実施し、交通安全意識と危険予測・危険回避能力を育成しています。また、各教科や総合・道徳教育においても、専門家と連携し、タブレットやデジタル教材等を活用した学習も実施しています。



消防署の出前授業

安全元気マップの作成・掲示



校区の安全元気マップを作成し、ホールに掲示しています。児童の安全に対する意識を高めるため、家の周りや通学路で危険を感じた場所に付箋を使って書き込めるようにしています。町内児童会ではマップについての

校種間連携の推進

令和元年度に高千帆中学校区合同学校運営協議会を実施し、9年間で育てたい子ども像を共有し、小中合同あいさつ運動や安全元気マップの作成など、共通取組事項を決定し、中学校区全体で実践しています。

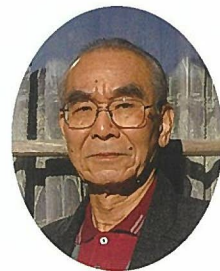
4 今後に向けて

今後は、これまで学校と保護者、地域の方々で積み上げてきた取組を大切にしながら、安全で安心な学校環境の整備や組織的な取組、児童への指導を一層充実させたいと考えます。そして、安全に関する資質・能力を身に付けた児童が大人となり、様々な場面で活躍することで、地域全体の安全意識の向上や安全で安心な社会づくりにつながるよう努めてまいります。



小中合同あいさつ運動

表現活動を取り入れた歴史の掘り起こし



徳地史談会
会長 山田文雄



「徳地奇兵隊」
ゆるキャラ「とくにゃん」

「徳地史談会」の発足

今から14年前のことです。地元の歴史を掘り起こすために「徳地幕末維新歴史放談の会」を立ち上げました。「放談の会」としたのは、「発言した人の責任を問わない。得られた情報は全て公開する。」として、歴史を自由に語れるようにとの名付けでした。

その結果

- ① 徳地全域から80名を超す会員が集まったこと。
 - ② 徳地の幕末維新史の光と影が浮かび出たこと。
 - ③ 地元の歴史に関心の高い仲間が育ってきたこと。
- 特に③は大きな成果で、4つの研究グループが新たに誕生しました。そこで「徳地幕末維新歴史放談の会」を発展的に解消して本年度6月、新たに「徳地史談会」として発足することになりました。

ふる里の歴史は、私たちの財産

歴史探方、歴史研究、文献調査、研修旅行と歴史好きにはたまりません。しかし、ともすると歴史オタクになりがちです。そこで私たちは、「ふる里の歴史を歴史資源、地域資源と捉えて、「歴史Ⅱ財産」という考え方で取り組みました。「歴史をタンス預金にするな！」と訴え、表現活動を積極的に取り入れたのです。それが写真(今年の湯田温泉白狐祭でのオープニングパレードの様子)のコスプレ姿で歴史を楽しむ姿です。その

他、山口県政資料館でのパフォーマンスや徳地に

転陣・駐屯した奇兵隊と中岡慎太郎との繋がりを、野外劇「薩長同盟は徳地から」として発表するなど、歴史と表現活動を結びつけたことで、僅かですが歴史が地域の人々の財産に変わったように思っています。

未来志向と表現活動重視の徳地史談会会則

「一人ひとりが地域の主役、ふるさと徳地の歴史が主役」を活動スローガンに、徳地の歴史を理解して地域活性化の地域資源として捉え活用することで、郷土への理解を深め、住民の郷土愛と地域の連帯感を育てていくことを目的とする。が史談会の目的です。



湯田温泉まつり会員パレード

その為の事業として、次の5つを掲げました。

- ① 「ふり返れば未来」をテーマにして、未来志向を希求する活動に取り組み。
- ② 郷土の歴史理解を深めるために、研修会や講演活動、表現活動に取り組む。
- ③ 会員相互の連携を深めるために、研修旅行や親睦会を計画する。
- ④ 郷土の歴史を理解して、町外からの人に対し「小さなおもてなし」「誰でも出来るおもてなし」が出来るよう「徳地まちじゅうボランティアガイド」の構想を推し進める。
- ⑤ 広く情報や活動を共有するために、他団体(行政機関や観光コンベンション、徳地文化協会や徳地仏教団など)との協力関係を推し進める。

終わりに

活動を進めるにあたって、山口県教育会から地域振興事業として協力を頂きました。お陰で、継続的な組がいき、新しい歴史研究グループを育てることも出来ました。活動の一端を、YouTube にかけています。「徳地の隊中様供養祭」や「中岡慎太郎と薩長同盟」出演者インタビュー&深掘り編」で検索ください。



徳地中学校エントランス展示

現職研修助成事業

子ども一人ひとりの言語力を高める教育活動
～小規模校のメリットを生かし、
デメリットを解消する工夫～



光市立塩田小学校
校長 吉田 哲朗

本校は光市の北東部、県立自然公園石城山の北側に位置する極小規模校である。児童は素直で穏やかに伸び伸びと学校生活を送っている。反面、様々な他者と関わりながら考えを広げ深める機会は少ない。卒業後、大きな集団や社会の中でたくましく生きていくために、小規模校のメリットを生かし、デメリットを解消しながら教育活動を工夫し、一人ひとりの言語力の向上をめざしている。

1 多様な表現機会の保障

校内や学校運営協議会での協議を重ね、「自分の言葉で考え、表現すること」を身に付けさせたい資質・能力の中核としてとらえ、教育活動を展開している。地域の「いきいきサロン」で学習発表をしたり、児童参加の熟議でグループの意見を児童が発表したりする等、一人ひとりの表現機会の拡充を図ることをとおして、大勢を前に堂々と表現する姿が見られるようになってきている。

2 直接交流学习・遠隔交流学习の充実

本校では近隣校の東荷小をはじめ、やまと学園4小1中での交流学习を積極的に行っている。合唱や水泳等、大人数だからこそできる活動を保障したり、複式を解消し、単式授業を経験できるようにしたりしている。

さらに昨年度からICTを活用した遠隔交流学习を推進している。特に、本年度はWeb会議アプリZoomを二つ起動させ、Zoom①では学級全体での表現活動に、Zoom②ではヘッドセットマイク（現職研修助成事業を活用して導入）を用い、ブレイクアウトルーム機能を使って、個々をつないだ表現活動に挑戦している。

これらのノウハウは、山口市立八坂小や美祢市立秋吉小との交流学习やオンライン太鼓交流会2022（11月22日実施）にも活用でき、学びの場の拡充につながっている。

今後も小規模校のメリットを最大限に生かし、一人ひとりの言語力を高める教育活動の充実を図っていきたい。



地域活性化活動助成事業

「ふるさと周東」を誇れる町にするために
～周東地域協育ネットの仕組みを生かして～



岩国市立周東中学校
校長 榎本 丈二

本校は、昭和51年4月1日に、当時の周東町内の5中学校が統合され、周東町立周東中学校として新しく発足し、今年で47年目を迎えています。豊かな自然に囲まれている周東町内6つの小学校から進学してきた現在の生徒数は226人で、生徒数は年々減少しています。

1 周東地域協育ネットの立ち上げ

これまでの本中学校区の地域協育ネットは、本校のコミュニティ・スクールと同じ組織で活動していました。しかし、CS会長やコーディネーターから、中学校区内で子どもたちを育てるために、組織を見直して再構築していきたいという意見が出されました。そのために、令和3年度から幹事会を立ち上げて準備を進め、令和4年2月24日に、地域の関係団体、各公民館長、各小中学校のCS会長、PTA代表、各小学校の児童代表7名、周東中学校の生徒代表15名など計61名が集まり、7つのグループに分かれて熟議を行いました。熟議のテーマは「周

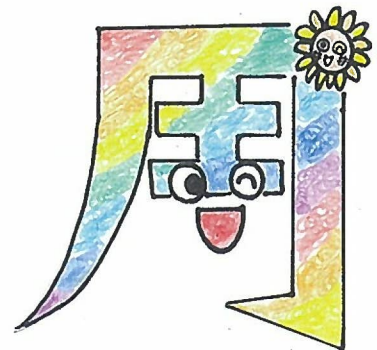
東町の未来を語ろう」と題して、様々な意見が交わされました。

2 名称とイメージキャラクター

令和4年5月25日、周東地域協育ネット協議会を正式に立ち上げました。

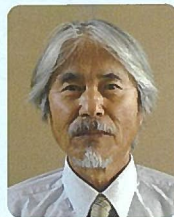
そして、周東地域協育ネットの名称とイメージキャラクターとその愛称を、児童生徒や地域住民の方々を対象に募集を行いました。その結果、名称が「わくわくしゅうとうネット」に、イメージキャラクターは、「スマイル周東ちゃん」になりました。

今後は、山口県教育会の地域活性化活動助成事業を活用し、「わくわくしゅうとうネット」の活動を地域に周知することで、周東地域の子どもたちの育ちや学びを、地域ぐるみで見守り支援することにより、子どもたちの生きる力を育成するとともに、子どもたちを介して大人の成長を促し、さらに地域住民の絆を深め、地域の活性化につなげていきます。



スマイル周東ちゃん

「屏風岩」を描く



萩支部
田原 哲生



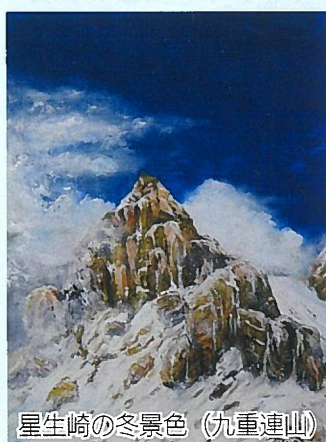
この絵は、退職校長会の作品展に出品した作品で、萩市と阿武町の境にある海岸に特徴的な姿を

見せている岩を描いたものである。少しピンク色をしているのでカリ長石を含んでいる花崗岩なのかもしれない。節理のつき方が関係しているのか、屏風が斜めに立っているように見えるところが名前の由来だろう。一枚岩が孤高の姿を見せているところに心惹かれる。この岩が耐えてきた地質年代的な悠久の時の流れを感じる。この姿に思いを馳せ、絵に表したいと思いい作品に仕上げた。

私が、絵を描くようになったきっかけは、高校時代美術館で見た写実的な油絵の表現に強く魅かれたからである。それ以来、趣味として絵を描いてきた。最初は油絵を描いていたが、次第に鉛筆・ペン、パステル等画材を変えて様々な表現にも挑戦した。なかなか思うように描けない

こともあるが、納得するまで没頭することは楽しい。また、水彩画の巧みな表現方法を知り、たくさん水彩画を描いてきた。ある時、理容業界の山口県大会のポスターと、市の「こども110番の家」のデザインを担当させてもらったことがある。そのことは、今も心に残っている出来事である。絵を描いていることで少しでも社会に寄与できたことに喜びを感じている。

退職してからは、絵画だけではなく、学生時代に学んだ物理学の内容を少しずつ勉強し直している。式の意味が分からず頭を悩ませることもあるが、理解できた時の喜びは格別である。いくつになっても、学ぶことを通して「できる」「わかる」を体験することは嬉しいものである。今後とも趣味を通して楽しく学び続けていきたい。



わたしの再挑戦



萩支部
三輪 みゆき

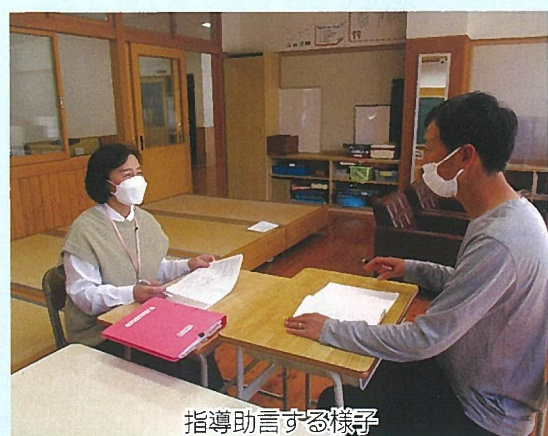
「複式学習指導員をしませんか」。第一報に驚くばかり。まさか私に。退職後の数年間、再任用はすべてお断りをし、家族を支える道を選んできた。福岡に京都、宇部に山口と充実した日々を送っていたが、後半は、話す人がいない寂しさでやや情緒不安になりかけた事もあった。まさに、そんな頃に頂いた再任用の話。「複式担任の経験はなく、複式の授業経験もない」不安はあったが、再挑戦してみたいという熱い思いに胸が高鳴っていった。

4月後半の最初の訪問校。参観した複式授業は、中学年の国語。3年も4年も、リーダーの指示のもと、一人学びから共学びへと、子どもたちだけで学習が進んでいく。担任は、両学年の活動の様子を見て、助言をされる程度だ。直接・間接指導がスムーズに流れる素晴らしい複式の授業に、感激で胸が震えた。

もともと、複式学習のことを学んでみたい。複式学級の先生方と語り合い、複式授業を追究してみたいと、強く感じた瞬間だった。

萩市内の小学校では、17校中13校が複式学級を有する。児童数が減少し、極少人数の複式学級も増えている。月に1回程度の訪問で、私に

きることは限られているが、先生方に寄り添いながら温かく指導助言をする事に努めている。訪問して嬉しかった事の一つは、子どもたちから声をかけられる事だ。「給食を一緒に食べませんか」「サッカーをしましょう」。さすがに、この歳でサッカーは難しいが、給食時間にお邪魔をして、仲良く「黙食」。時には、体が悲鳴を上げ、体のふしぶしが痛む朝もある。年度末まで体力が続くかどうか不安でいっぱいだが、先生方と可愛い子どもたちに会える喜びを胸に、今日も、わたしの再挑戦は続いている。



指導助言する様子